

# 第11回香川県親守詩優秀作品発表会開催!



香川県教職員連盟機関誌  
発行所: 香川県教職員連盟  
発行者: 安本 薫

〒760-0004  
高松市西宝町2丁目4番60号  
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721  
FAX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/  
E-mail: info@kakyoren.com  
毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十二年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

「感謝の気持ちから親へ」  
作品が約一万一千点!

十月七日(土)香川県教育会館ミューズホールにおいて、「第11回香川県親守詩優秀作品発表会」を開催した。入賞者の児童生徒とその保護者、学校関係者、教文研協議会会員等、約三〇〇名に参加いただいた。香川県内各地域の児童生徒より、昨年度とほぼ同数であった。七月に、香川県教育文化研究所研究員による一次審査が行われ、九月には選考委員長の七條正典・香川大学教育学部教授による二次審査を経て、優秀作品一〇二編(俳句の部五十二編・エッセイの部五十編)が選出された。



発表会に参加していただいた皆さん



講評を述べる七條選考委員長

開会行事の後、川島吉照・モラロジール研究所四国ブロック部長より講演、七條正典親守詩選考委員長から、親子や家族の絆の深さを描いたたかさを豊かに紹介した最優秀作品の紹介ととも、最優秀賞、優秀賞の表彰式が行われ、大西秀人・高松市長、工代祐司・香川県教育委員会教育長他、多くのご来賓にご出席いただいた。

- 学校賞受賞校**
- 小学校の部**
- 高松市立多肥小学校
  - 高松市立塩江小学校
  - 高松市立牟礼北小学校
  - 高松市立屋島小学校
  - 高松市立三溪小学校
  - 高松市立飯野小学校
  - 高松市立東部小学校

- 中学校の部**
- 高松市立香東中学校
  - 丸亀市立飯山中学校
  - 多度津町立多度津中学校
  - 高松市立庵治中学校
  - 高松市立直尾中学校
  - 直島町立直島中学校
  - 香川県立高松北中学校
  - 小豆島町立小豆島中学校



**給与制度の総合的見直し**  
(平成三十年度において実施する措置)

県内の地域手当の支給割合の引上げ  
二・九% ↓ 三・二%

① 民間給与との較差(〇・一三%)を埋めるため給料表の水準の引上げ  
② 期末・勤勉手当(ボーナス)の引上げ(〇・一月分)

・年間支給月数を引上げ 四・三〇月分 ↓ 四・四〇月分  
・給与改定の実施時期 平成二十九年四月一日。ただし、期末・勤勉手当については平成二十九年十二月一日

**県人事委員会、四年連続の引上げ勧告**

香川県人事委員会は十月十一日、香川県知事、香川県議会議長に対して「平成二十九年、職員給与等に関する報告と勧告」を行った。本年の給与勧告のポイントには次の通りである。

**エッセイの部 最優秀作品**  
「父にとつての私」  
小学校五年 女子

父は、私が口答えしたり反抗的な態度をとったりすると、「四十ミリリットルが何をえらそうに。」と言って昔話が始まります。

私は、予定日より一カ月早く産まれて体も小さかったのでしばらく未熟児室に入院していました。その時、たった四十ミリリットルのミルクを自力で飲みきれず、父が面会に行くときよく鼻からチューブでミルクを注入されていたそうです。父の頭の中には、その様子がまだ残っているようなのです。私はこれから先もこの話を聞かされると思うとうんざりするけれど、母によると「元気に成長してうれしんだよ。」との事なので、私は四十ミリリットルの話題に大人しくつき合っています。



表彰式の様子

**俳句の部 最優秀作品**  
「反こう期の自分」  
小学校六年 女子

反こう期  
ピクともしない  
強い母

先日、香教連・劇団四季シアターに同行した。演目はキャッツ。私自身、初めての劇団四季の鑑賞ということもあり、楽しみにしていた▲劇場内は別世界。きれいに装飾された舞台が目の前に用意され、多くの観客の熱気に溢れていた。演技が始まると、ストーリーに引き込まれ、最高峰の舞台を堪能することができた。感動である▲しかし感動したのはストーリーだけではない。私が最も感動したのは、劇団員・スタッフの皆さんの所作・言葉遣い・姿勢等の美しさである。座席案内をしているスタッフの笑顔や応対する時の丁寧な言葉遣い。諸注意を聞き取りやすい声ではっきり伝えてくる姿。一つ一つの所作が美しく、演技が始まる前から感心した。演技中は劇団員の美しい姿勢や声にプロ意識を感じた▲全員が誇りをもって取り組んでいる様子に感動である。我々も教育専門職として、教育に誇りをもって取り組み、日々子供たちに向き合わなければならないと改めて感じた一日となった。(薫)